

## 慣習・風習の変化と継承について

北進ゼミナール

今年の1月1日付のNHKニュースによると、元日に全国で配達される年賀状はおよそ8億8200万枚と去年を14%下回り、14年連続で減少したそうである。そもそも日本には新年に年上の方やお世話になった方へ旧年中の感謝を伝えると共に新年も変わらないお付き合いを願う慣習が古代からあり、遠方に暮らして訪ねるのが難しい相手に手紙を送るようになったのが年賀状の起源とされている。資料Ⅰは年賀ハガキの発行枚数の、資料ⅡはSNS利用者数の推移を示しているが、何らかの相関<sup>注1</sup>があるように見える。数十年後には紙の年賀状を送り合う慣習はアナログ時代の遺物<sup>いぶつ</sup>と位置付けられてしまっているかもしれない。

年賀状もそうだが、他にも日本には様々な慣習や風習がある。資料Ⅲはその具体例だが、これらの中には現在も盛んに行われているものもあれば、形を変えたり廃れたりしていく傾向のものもある。時の流れに伴って慣習や風習に変化が生じるのは仕方のないことであるが、失われてしまうと一抹の寂しさを感じてしまう。冒頭の年賀状離れは手間のかかることが要因の一つとされているようだが、紙の年賀状がその役割を終えていくのは仕方のないことと割り切るべきなのだろうか。

ところで、慣習や風習といえばその全てに謂れ<sup>いわ</sup><sup>注2</sup>があって伝統的に行われているように思われがちだが、必ずしもそうではない。例えば2月14日のバレンタインデーに女性から男性にチョコレートを贈るという風習は昭和時代中期に始まった日本独自のものである。元々は洋菓子メーカーがチョコレートの売上を伸ばすために考え出した宣伝文句だったのだが、これが今に至るまで大ヒットを続けているのだ。その一方で、チョコレートを買う求める目的は徐々に変化してきている。30年ほど前には恋愛感情の伴わない「義理チョコ」がブームで、20年ほど前からは同性に送る「友チョコ」が始まり、そして、最近では自分自身のための「ごほうびチョコ」が主流となりつつあるようだ。宣伝をきっかけとして生まれた季節イベントが形を変えながらもチョコレートに親しむ風習として続いている一例である。

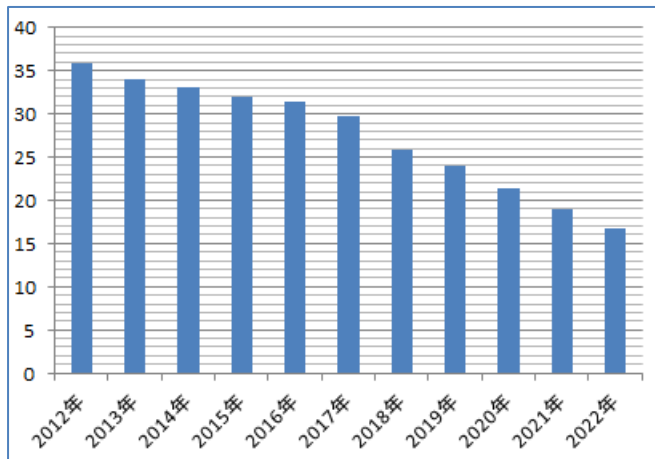
このように、慣習や風習の起源を遡ると「なーんだ…」となってしまふものもあるが、そういうものも含めて永年続いてきているものを途絶えてさせてしまうと、凶らずも同時に他の何かは衰退していったりしないかと心配している。再び年賀状に話を戻すと、パソコンにしがみつばかりで年々文字を書く時間も量も減ってきている筆者の場合、年末に年賀状に手書きで一言を添える作業は大変でありつつも自身のアイデンティティ<sup>注3</sup>と向き合う貴重な時間にもなっていた。面倒だからという理由で止めてしまうと、自分自身を振り返りながら一生懸命に文字を書くという機会を一つ失ってしまうことになる。もし多くの人にとってもそうだと拡大解釈すると、手書き離れが一層進んで習字を学ぶ意義を低下させてはしまわないか。さらに言えば、書道を実用面では不要なものと扱う世の中になってしまわないだろうか。慣習や風習を継続させることには負荷がかかるし、時には自己犠牲を伴う場合もある。それでもそれらをできるだけ継承していくのは今を生きる我々の務めであるようにも思う。もちろん様々な意見があつていい。これを機に自分の身の回りにある慣習や風習に思いを巡らせてみて欲しい。

以上

注1 相関：お互いの関係性・関連性      注2 謂れ：物事の根拠・由緒

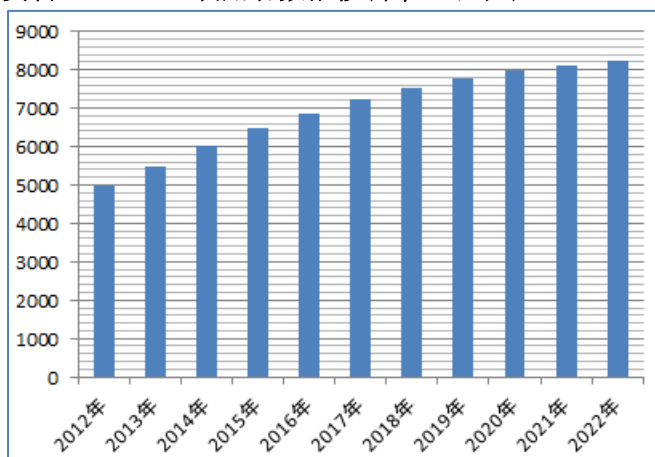
注3 アイデンティティ：自分が自分であると自覚すること

□資料Ⅰ 年賀ハガキ発行枚数の推移(単位：億枚)



参考：yahoo ニュース「年賀葉書の発行枚数などを探る」掲載数値を引用

□資料Ⅱ SNS の利用者数推移(単位：万人)



参考：ICT 総研「SNS 利用動向に関する調査」掲載数値を引用

□資料Ⅲ 年中行事となっている慣習・風習の具体例(抜粋)

慣習・風習	時期と内容
鏡開き	1年間の平穏無事を祈って、神様にお供えしていた鏡餅を1月中旬に食べる日本の伝統行事。
節分の豆まき	2月3日に家で豆を撒いて邪気(鬼)を追い払い、福を呼び込む行事。室町時代頃に広まったとされる。
桃の節句	ひな祭りとも呼ばれ、3月3日にひな人形を飾って女の子の成長を願う日本の伝統行事。
端午の節句	5月5日に鯉のぼりを上げたり五月人形を飾ったりして男の子の成長を祝う日本の伝統行事。
母の日・父の日	5月第二日曜は母親に、6月第三日曜は父親に感謝を表す行事。両方ともアメリカから伝わり、日本では母の日は1950年代に、父の日は1980年代に「ベストファーザーズ賞」の設置で広まったとされる。
中元・歳暮	中国由来の中元はお盆に合わせて7月頃に、日本古来の歳暮は年の瀬にお世話になった方に贈り物をする風習。
暑中見舞い	前述の中元を簡略化した挨拶状(ハガキ)。相手の健康や安否を尋ね、自分の近況報告を知らせる風習。
春と秋のお彼岸	元は仏教の修行の一つで春分の日・秋分の日近辺にお墓参りをして先祖の魂を弔う日本の伝統行事。
ハロウィンの仮装	元は欧米の行事で10月31日にわざと怖い仮装をして悪霊を追い払う行事。日本では1990年代に東京ディズニーランドで行われたイベントによって一気に広まった。
クリスマス	元はイエス・キリストの生誕を祝う宗教行事だったが、日本では1980年代の松任谷由実や山下達郎のクリスマスソングの大ヒットで恋人の日のように扱われるようになってきた。

注)由来及び内容には諸説あります。

## 慣習・風習の変化と継承について

今年の正月、筆者宛に複数人の方から「年賀状によるご挨拶は今年を最後にしたい」という年賀状じまいのご挨拶があったり、電子メールで年始のご挨拶があったりしました。「年賀状は大変だから…」と共感すると同時に、永年の慣習が変化しつつあることを目の当たりにして少し複雑な思いに駆られた次第です。そこで、今回は日本の慣習や風習に対する自分の思いやその継承についての自分の意見を述べてもらうことにしました。課題文や資料Ⅰ～Ⅲに目を通した上で、以下の条件に従って常体語(「～だ」「～である」調)で作文を書いてください。

なお、課題作文は以下の手順に従って3日に分けて取り組んでください。また、(3)でテンプレートが示されていますが、それにこだわる必要はありません。(1)(2)の条件を守れば自由に書いて構いません。

**(1)指定作文用紙に 800 字以内で書くこと。タイトルは不要です。**

**(2)以下の順番で目安時間(3日間合計 2.5 時間程度)を意識して進めてください。**

- ①【**初日 20 分程度**】課題文に目を通してから、年賀状を出したことがあるかどうかに触れた上で、紙の年賀状をやり取りする慣習についての自分の意見を下書きで書いてください(50字前後)。
- ②【**初日 15 分程度**】資料Ⅰと資料Ⅱのグラフを見比べて読み取れた傾向を簡単に書いてください。その上で、その傾向についての自分の意見を下書きで書いてください(100字前後)。
- ③【**初日 or 二日目 40 分程度**】課題文の最後にある、慣習・風習の継承という筆者の意見に賛成・反対の立場を明確にして自分の意見やその理由を書いてください。その上で資料Ⅲを参考に自分自身が最も関心を持つ慣習や風習を一つ取り上げ(資料Ⅲに掲載されていないものも可とします)、それを大人になった時にどうしていきたいのか(=そのまま続けていきたいのか or 形を変えていきたいのか or 止めていきたいのか)を、その理由も入れて下書きで書いてください(500～600字程度)。
- ④【**二日目 or 三日目 30 分程度**】①～③をつなげて音読しながら、誤字脱字の訂正、句読点・助詞・接続詞の点検及び修正などを行って 800 字に収まるようにして下書きで書いてください。
- ⑤【**三日目 30 分程度**】④で完成したものを最終確認しながら指定原稿用紙に清書してください。

**(3)書き方がよく分からないという生徒は以下のテンプレートを参考にして書いてください。**

- ①私は年賀状を出したことがある(or ない)。年賀状は～なので、私にとっては～というものだからだ。
- ②資料Ⅰと資料Ⅱを見比べると年賀ハガキの発行枚数が年々～である一方で、SNS の利用者数は年々～している傾向が読み取れる。この傾向から私は～と考えた。
- ③私は慣習・風習をできるだけ継承していくべきという作者の意見に基本的には賛成である(or 反対である)。なぜなら～であると考えたからだ。その一方で、～という視点では～するべきだと思う。資料Ⅲにある～という風習については～という思いがある。私は将来～ということ意識して～していきたい。

以上